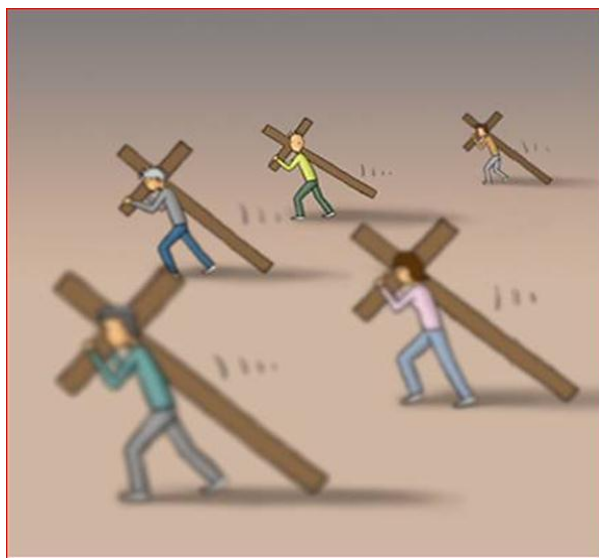
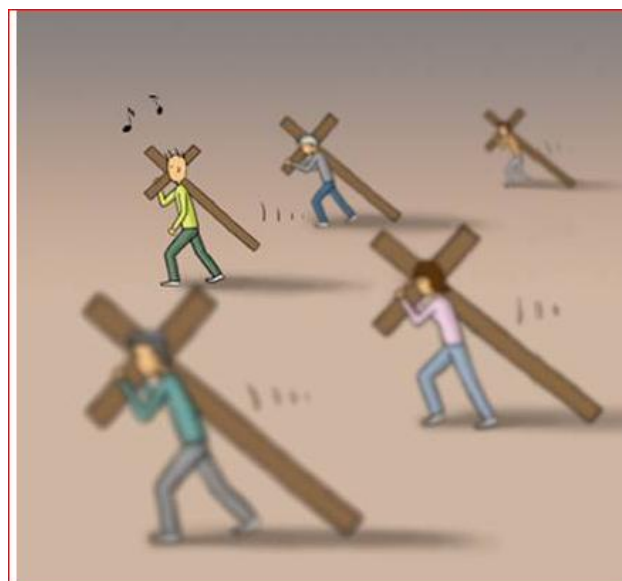


自分の十字架

マタイ 16:24 だれでもわたしについてきたいと思うなら、
自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。





我々は負っている十字架に不平、つぶやきを言う。神は先を見ておられるが、我々には見えない。

神は我々が崖っぷちも渡れるように備えておられるが、我々はそれに気が付かない。

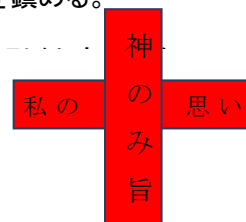
負っている十字架がどんなものであろうと、苦しみの中には、また喜びが来る。

あなたはつまずき、倒れるかもしれない、しかし、神はいつもあなたの叫びに答えようとしておられる。

あなたのすべての悩みも、すべての涙も知っておられ、主の言葉はあなたの恐れを鎮める。

十字架の意味： 多くのものが思い違いをしている！

自分が蒔いた種を刈り取る病気、借金等々は主が言われる「十字架」ではない。それらは負う必要がない。神の恵みによって、それらのことから解放されるように願い、努力する必要がある。しかし、それらが身に起こることを主は許される。「私の思いではなく、あなたの御心」を学ぶ姿勢



が十字架なのである。私の好み、考えでなく、主の御要求に従おうとするときに十字架を負うことになる。

主の模範

ルカ 22:42 「父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」。



患難下 223 「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と、キリストは言われた（マタイ 16:24）。自己否定と犠牲がクリスチャン生活の特色となる。好みが変わったことの証拠は、主 にあがなわれた者たちのために与えられた道を歩むすべての者の服装に見られるようになる。

実物 95 ある人びとは、つねに、天の真珠を求めているように見えるけれども、彼らは、自分たちの悪習慣を全く放棄していない。彼らは、キリストが彼らの中に生きてくださるために自己に死ぬことをしない。彼らが高価な真珠を見いだすことができないのはそのためである。彼らは、まだ、汚れた野心や世の快樂を愛する心に勝利していない。彼らは、キリストにならって十字架をとって、克己と犠牲の道を歩かない。九分通りクリスチャンではあるが、完全なクリスチャンになっていない。天国に近いようではあるが、天国にはいることはできない。完全ではなくて、九分通り救われていることは、九分通り失われていることではなくて、完全に失われていることである。

実物 256 彼らは、それが犠牲を必要としない場合には、服従の約束を守るように見える。しかし、克己や犠牲が要求されたり、十字架がかか げられるのを見ると彼らはしりごみするのである。

スタディバイブル新 570 信仰を告白しているが、実際にはキリストに従っていない多くのクリスチャンがいる。彼らは厳密な意味での自己否定と自己犠牲の十字架を負っていない。(MS138,1902)

患難下 263 きよめの 祝福を受けようとする人たちは、まず自己犠牲の意味を学ばなければならない。キリストの十字架は、「永遠の重い栄光」のかかる支柱である。「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」と、キリストは言われる（2コリント 4:17、マタイ 16:24）。神に対するわれわれの愛を示すものは、同胞に対するわれわれの愛のかおりである。魂に休息をもたらすのは、奉仕における忍耐である。謙遜に、勤勉に、忠実に働いてこそ、イスラエルの幸福は増し加えられる。神はキリストの道に自発的に従いたいと思う者を支え、強めて下さるのである。

スタディバイブル新 59 キリストと完全に結合するために、我々は彼のくびきを負うべきである。「私のくびきを負いなさい」と彼は言われる。「私の要求に従いなさい」と。けれどもこれらの要求は、人間の意志と目的に相反するかもしれない。それなら何がなされるべきか。神が言うことに耳を傾けるがよい、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」。くびきと十字架は、神に意志を明け渡すという同じ事を表すしるしである。くびきを着けることは、有限な人間を、神の最愛の御子と親しく結び付けてくれる。十字架を負うことは、自我を魂から断ち、キリストの重荷を負う方法が学べる所に人を置いてくれる。キリストのくびきを着けず、十字架を持ち上げて彼についていくことをしないで、キリストの後に従うことはできない。もし我々の意志が神の要求に調和していないなら、我々は自分の好みを捨て、最愛の願望を断念して、キリストの足跡を踏み歩くべきである。…RH 1900年、10月23日

自己否定と十字架 スチュワードシップに関する勧告、288

今日存在している利己主義の幾千というチャンネル(経路)を断ち切り、正しいチャンネル(経路)に資金が向けられるとき、会計に多くの収入が流れ込んでくるであろう。神の家に行くべき資金で多くの者が偶像を買っている。ほんとうの自己否定と自己犠牲と十字架を実行しないでは真の慈善を行うことは誰もできない。キリストに真実に従っているすべてのクリスチャンの道に横たわっているのはそれである。「だれでも私に従ってくる者は、自分を否定し、自分の十字架を負ってわたしにしたがってきなさい」とイエスは言われた。すべての者は、キリスト者の弟子としての訓練には、自己否定と自己犠牲が含まれていることを考えているだろうか。必要ならば、世のためにご自身の命を与えられた方のために命そのものを落とすことさえも含まれているのである。

十字架の飾り ローマ・カトリック

大争闘下 325 カトリック教徒は、その教会、祭壇、衣服に十字架をつける。至るところに、十字架のしるしが見られる。至るところで、それは、外面的に崇敬され、高められている。しかし、キリストの教えは、多くの無意味な伝説、偽りの解釈、厳格な規則の下に埋もれている。頑迷なユダヤ人に関する救い主の言葉は、ローマ・カトリック教会の指導者たちに、いっそう大きな迫力をもって当てはまる。「また、重い荷物をくくって人々の肩にのせるが、それを動かすために、自分では指一本も貸そうとはしない」(マタイ二三ノ四)。良心的な人々が、怒った神の復讐に絶えずおののいているにもかかわらず、教会の高位にある者たちの多くは、ぜいたくな暮らしをして、享樂をほしいままにしているのである。

リバイバル聖歌 53 番

- | | | |
|---|--|---|
| <p>1. 十字架はよしおもくとも
笑顔もておいゆけ
周りの人のうれいをも
担いうべければ</p> | <p>2. なが立場よしつらくとも
忍びもてとどまれ
さまよう人の疲れをも
いやしうべければ</p> | <p>3. 働きはよし見えずとも
のぞみもてつとめよ
栄えのうちに喜びて
刈るをうべければ</p> |
|---|--|---|

(おりかえし)

笑みをたたえて 十字架おいゆけ
悲しむものを喜びに
導きうべければ

最後の時代の神の民

- ・「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。黙示録 14:12
- ・神のご要求に従うことが何よりも喜びとなる。
- ・彼らはその思いと感情に「私の思いでなく、あなたのみこころのままに」と書き記されているからである。
- ・最後まで自分の十字架を負って勝利する。

黙示録 15:2,3 勝利の歌

またわたしは、火のまじったガラスの海のようなものを見た。そして、このガラスの海のそばに、獣とその像とその名の数字とにうち勝った人々が、神の立琴を手にして立っているのを見た。

彼らは、神の僕モーセの歌と小羊の歌とを歌って言った、「全能者にして主なる神よ。あなたのみわざは、大いなる、また驚くべきものであります。万民の王よ、あなたの道は正しく、かつ真実であります。

主よ、あなたをおそれず、御名をほめたたえない者が、ありましようか。あなただけが聖なるかたであり、あらゆる国民はきて、あなたを伏し拝むでしょう。あなたの正しいさばきが、あらわれるに至ったからであります」。

※ 獣とは「わがままに行動する」。人間の本来の性質。

「わたしは愚かで悟りがなく、あなたに対しては獣のようであった。」詩編 73:22

預言的には、ダニエル、黙示録の「獣」は自我の共同体、「意のままに」振る舞うローマ・カトリックの事である。内なる法王こそ恐るべきものであるとルターは言った。内なる獣=法王に勝利しなければ、外なる獣=ローマ法王権に勝利することは不可能である。

1 希望 2 あがなわれた者も、墮落しなかつた者も、キリストの十字架に彼らの科学と彼らの歌を見出すであろう。イエスのみ顔にかがやいている栄光は自己犠牲の愛の栄光であることがわかるであろう。カルバリーの光に照らしてみても、おのれを捨てる愛の法則が天と地の生命の法則であること、「自分の利益を求め」ない愛はそのみなもとが神の心にあること、柔和で心のへりくだったお方のうちに、だれも近づくことのできない光のうちに住んでおられる神のご品性があらわれていることなどがわかるであろう(I コリント 13:5)。

3 頁 与えることがわれらの神の栄光.....

宇宙の生命の法則である大原則。

5 頁「神の御品性がサタンの品性と対照的に示されねばならない。」

実物47 キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわそうと熱望しておられる。キリストの品性が完全に

キリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。

虹 68 番

- | | | |
|---------------|------------|----------|
| 1. 主のみあとわれはゆく | 主のみあとわれはゆく | わが心さだまれり |
|---------------|------------|----------|

- み国にいるまで
2. わが十字架とりてゆく
わが十字架とりてゆく
うしろふりかえりみず
み国にいるまで
 3. まずイエスはわれを愛す
ゆえにイエスを愛す
主われのみあとわれはゆく
み国にいる s まで